

中小企業景況調査報告書

2021年7～9月期実績

2021年10～11月期予測

この調査は、商工会の経営改善普及事業の指導資料にするため、国・道の指定事業として、全国商工会連合会を中心に昭和54年から全国一斉に実施しているものである。
調査要領と、北海道分の調査対象20商工会の回答企業数は、次のとおりである。

1. 調査要領

(1) 調査対象時期等

①調査対象時期：2021年7～9月期の実績及び2021年10～12月期見通し

②調査期間：2021年8月23日～9月1日 ※調査時点は2021年9月1日

(2) 調査方法

①商工会の経営指導員等による訪問面接調査

②調査対象企業の抽出は、業種・規模等の有意抽出法による。

(3) 調査対象商工会

①人口～9,999人・・・せたな、ニセコ町、積丹町、北竜町、南富良野町、遠別枝幸町、安平町、大樹町、広尾町、標茶町

②人口10,000～29,999人・・・七飯町、えんがる、湧別町、新ひだか町、別海町

③人口30,000人～(市に含まれる)・・・石狩北、北斗市、いわみざわ、あさひかわ

(4) 回答企業数

業種	調査企業数	回答企業数	回答率	業種	調査企業数	回答企業数	回答率
製造業	52	50	96.2%	小売業	86	85	98.8%
建設業	46	44	95.7%	サービス業	116	109	94.0%
				合計	300	288	96.0%

※設備投資の設問については、未回答の企業があるので回答企業数とは一致しない業種があります。

(5) D I = ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)とは？

前年同期と比べて、「増加(上昇・好転)」-「減少(低下・悪化)」の回答企業の比率。

例えば、売上高が前年同期比で「増加」回答企業50%、「不変」回答企業30%、「減少」回答企業20%の場合、D I は $50-20=+$ 30 となり、売上高の面では「増加(上昇・好転)」気運であることを表わす。

2. 全業種の業況(前年同期比、前期比の推移) ※D I 値のみ

業種	前年同期比		前期比					
	今期	来期見込	R2.7-9	R2.10-12	R3.1-3	R3.4-6	今期	来期見込
製造業	▲ 30.0	▲ 48.9	▲ 24.5	▲ 22.9	▲ 27.6	▲ 12.8	▲ 18.8	▲ 34.7
建設業	▲ 4.5	▲ 11.4	▲ 12.8	▲ 7.0	▲ 18.6	0.0	▲ 7.0	▲ 6.8
小売業	▲ 38.1	▲ 32.9	▲ 54.1	▲ 32.0	▲ 47.5	▲ 30.5	▲ 28.0	▲ 29.4
サービス業	▲ 48.2	▲ 42.9	▲ 31.0	▲ 40.3	▲ 62.0	▲ 42.4	▲ 36.7	▲ 29.0

3. 北海道内商工会地域の状況

製造業 主要景況項目の推移（前年同期比、前期比の推移）

項目	状況	前年同期比		前 期 比				
		今期	来期見込	R2.10-12	R3.1-3	R3.4-6	今期	来期見込
業況	好転した	6.0	2.3	10.4	6.4	14.9	10.4	4.1
	不変	58.0	46.5	56.3	59.6	57.4	60.4	57.1
	悪化した	36.0	51.2	33.3	34.0	27.7	29.2	38.8
	D・I	▲ 30.0	▲ 48.9	▲ 22.9	▲ 27.6	▲ 12.8	▲ 18.8	▲ 34.7
売上(加工)額	増加した	16.0	10.0	22.4	12.8	24.5	33.0	
	不変	44.0	40.0	38.8	14.9	34.7	33.4	
	減少した	40.0	50.0	38.8	72.3	40.8	33.3	
	D・I	▲ 24.0	▲ 40.0	▲ 16.4	▲ 59.5	▲ 16.3	0.0	
資金繰り	好転した	6.3	4.3	2.1	2.2	6.4	6.4	
	不変	72.9	67.4	78.8	73.9	57.4	78.7	
	悪化した	20.8	28.3	19.1	23.9	36.2	14.9	
	D・I	▲ 14.5	▲ 24.0	▲ 17.0	▲ 21.7	▲ 29.8	▲ 8.5	
原材料仕入単価	上昇した	38.8	40.8					
	不変	57.1	57.2					
	低下した	4.1	2.0					
	D・I	34.7	38.8					
採算(経常利益)	好転した	4.0	4.0					
	不変	60.0	62.0					
	悪化した	36.0	34.0					
	D・I	▲ 32.0	▲ 30.0					

○ 設備投資実施・来期計画と投資対象

【今期実施内容】

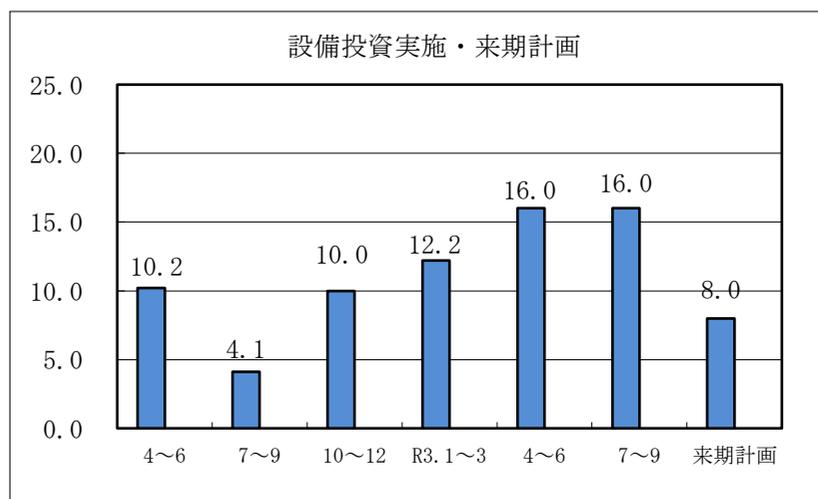
回答50事業所の内、8事業所(16.0%)が実施。

●車両・運搬具、付帯施設、その他=各2事業、●生産設備、OA機器=各1事業所

【来期計画内容】

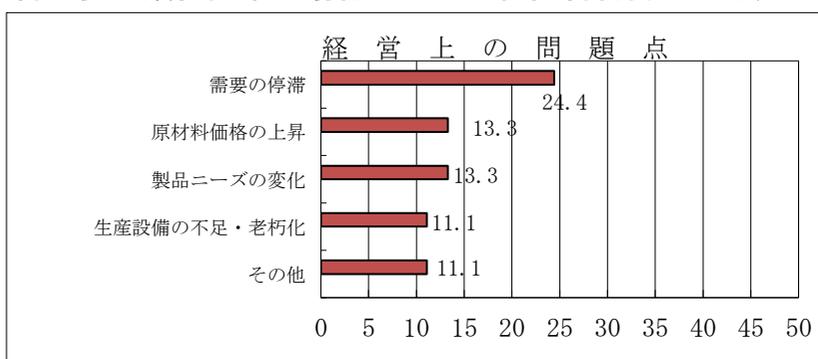
回答50事業所の内、来期に4事業所(8.0%)が計画。

●生産設備=3事業所、●工場建物=1事業所



○ 今期の経営上の問題点（1位回答の多い順。同率の場合は1～3位回答合計による）

1位は前回同様「需要の停滞」で前回より15.1ポイント減少している。2位も前回同様「原材料価格の上昇」で1.7ポイント増加している。3位は前回4位の「製品ニーズの変化」で4.0ポイント増加している。4位は前回番外の「生産設備の不足・老朽化」で6.4ポイント増加した。5位は前回3位の「その他」0.5ポイント減少した。また、前回5位の「製品(加工)単価の低下・上昇難」は9.3ポイント減少し番外となった。



建設業

主要景況項目の推移（前年同期比、前期比の推移）

項目	状況	前年同期比		前 期 比				
		今期	来期見込	R2. 10-12	R3. 1-3	R3. 4-6	今期	来期見込
業況	好転した	11.4	6.8	9.3	11.6	19.0	9.3	6.8
	不変	72.7	75.0	74.4	58.2	62.0	74.4	79.6
	悪化した	15.9	18.2	16.3	30.2	19.0	16.3	13.6
	D・I	▲ 4.5	▲ 11.4	▲ 7.0	▲ 18.6	0.0	▲ 7.0	▲ 6.8
完成工事 (請負工 事) 額	増加した	18.6	11.4	28.3	20.9	29.3	38.1	
	不変	60.5	61.3	41.3	37.2	39.0	42.9	
	減少した	20.9	27.3	30.4	41.9	31.7	19.0	
	D・I	▲ 2.3	▲ 15.9	▲ 2.1	▲ 21.0	▲ 2.4	19.1	
資金繰り	好転した	2.3	7.0	6.7	2.4	14.6	7.3	
	不変	88.4	81.4	80.0	80.5	73.2	87.8	
	悪化した	9.3	11.6	13.3	17.1	12.2	4.9	
	D・I	▲ 7.0	▲ 4.6	▲ 6.6	▲ 14.7	2.4	2.4	
材 料 仕入単価	上昇した	55.8	34.9					
	不変	44.2	65.1					
	低下した	0.0	0.0					
	D・I	55.8	34.9					
採算(経 常利益)	好転した	4.5	2.3					
	不変	77.3	75.0					
	悪化した	18.2	22.7					
	D・I	▲ 13.7	▲ 20.4					

○ 設備投資実施・来期計画と投資対象

【今期実施内容】

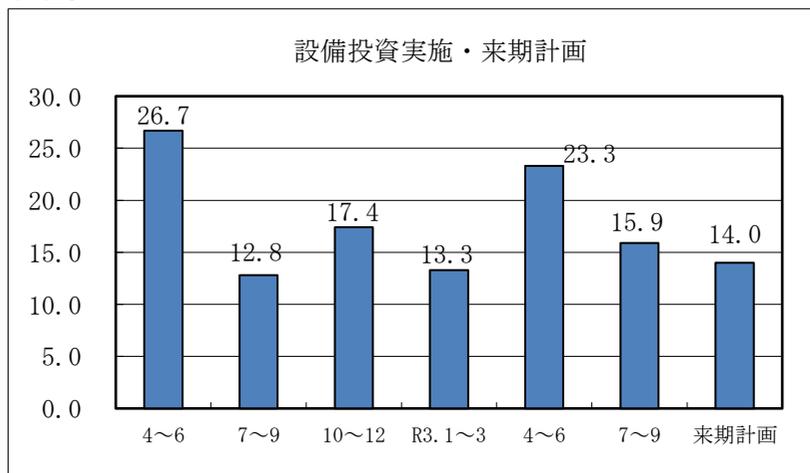
回答44事業所の内、7事業所(15.9%)が実施。

●車両・運搬具=3事業所、●建設機械、OA機器=各2事業所、●土地、建物、福利厚生施設=各1事業所

【来期計画内容】

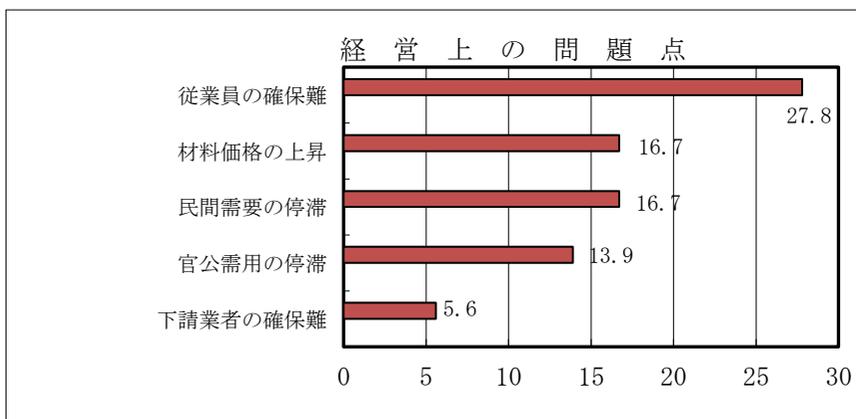
回答44事業所の内、来期は6事業所(14.0%)が計画。

●建設機械=3事業所、●土地=2事業所、●車両・運搬具、OA機器、福利厚生施設=各1事業所



○ 今期の経営上の問題点（1位回答の多い順。同率の場合は1～3位回答合計による）

1位は前回同様「従業員の確保難」で前回より5.6ポイント増加している。2位は前回番外の「材料価格の上昇」で13.9ポイント増加した。3位は前回同様の「民間需要の停滞」でポイントの増減はなかった。4位は前回2位の「官公需用の停滞」で、8.3ポイント減少し、5位は前回番外の「下請業者の確保難」で2.8ポイントの増加であった。前回4位の「熟練技術者の確保難」、前回5位の「人件費の増加」は、それぞれ8.3ポイント、5.6ポイント減少し、番外となった。



小 売 業

主要景況項目の推移（前年同期比、前期比の推移）

項 目	状 況	前年同期比		前 期 比				
		今期	来期見込	R2.10-12	R3.1-3	R3.4-6	今期	来期見込
業 況	好転した	7.1	4.9	6.7	6.4	4.2	8.0	9.3
	不 変	47.7	57.3	54.6	39.7	61.1	56.0	52.0
	悪化した	45.2	37.8	38.7	53.9	34.7	36.0	38.7
	D・I	▲ 38.1	▲ 32.9	▲ 32.0	▲ 47.5	▲ 30.5	▲ 28.0	▲ 29.4
売上額	増加した	22.4	12.0	18.3	8.4	20.5	28.9	
	不 変	34.1	48.2	40.2	37.3	42.2	33.8	
	減少した	43.5	39.8	41.5	54.3	37.3	37.3	
	D・I	▲ 21.1	▲ 27.8	▲ 23.2	▲ 45.9	▲ 16.8	▲ 8.4	
資金繰り	好転した	4.7	2.4	4.9	3.6	3.8	3.6	
	不 変	68.2	64.3	74.4	65.1	74.4	77.1	
	悪化した	27.1	33.3	20.7	31.3	21.8	19.3	
	D・I	▲ 22.4	▲ 30.9	▲ 15.8	▲ 27.7	▲ 18.0	▲ 15.7	
商 品 仕入単価	上昇した	22.4	20.2					
	不 変	70.5	73.8					
	低下した	7.1	6.0					
	D・I	15.3	14.2					
採算(経 常利益)	好転した	6.0	2.4					
	不 変	52.3	60.3					
	悪化した	41.7	37.3					
	D・I	▲ 35.7	▲ 34.9					

○ 設備投資実施・来期計画と投資対象

【今期実施内容】

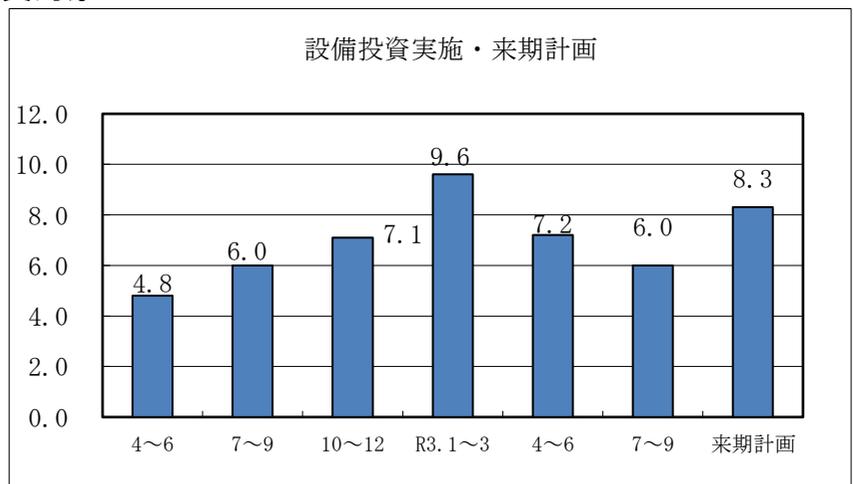
回答85事業所の内、5事業所(6.0%)が実施。

●車両・運搬具=3事業所、●付帯施設、OA機器=各2事業所、●土地、販売設備=1事業所

【来期計画内容】

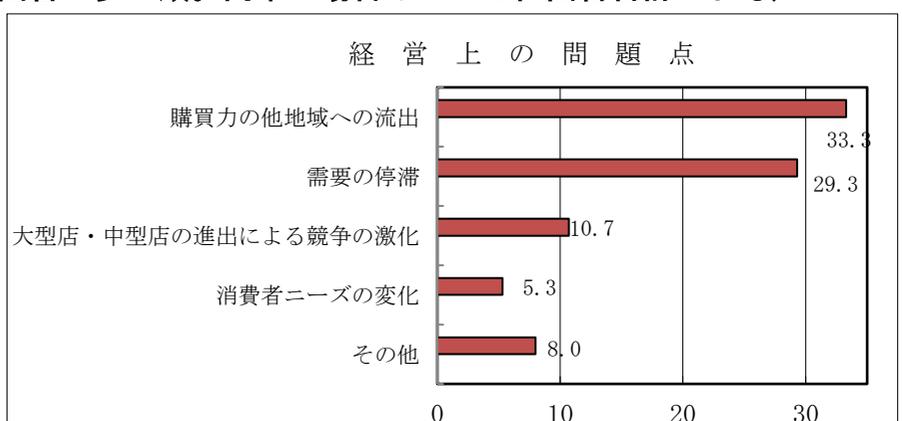
回答85事業所の内、来期は7事業所(8.3%)が計画。

●車両・運搬具=3事業所、●付帯設備=2事業所、●土地、店舗、販売設備、OA機器=各1事業所



○ 今期の経営上の問題点（1位回答の多い順。同率の場合は1～3位回答合計による）

1位は前回2位の「購買力の他地域への流出」で、前回から4.0ポイント増加した。2位は前回1位の「需要の停滞」で4.0ポイント減少した。3位は変わらず「大型店・中型店の進出による競争の激化」であったが、前回から4.0ポイント減少した。4位も変わらず「その他」でポイントの増減はなく、5位も変わらず「消費者ニーズの変化」で1.4ポイントの減少となっている。



サービス業

主要景況項目の推移（前年同期比、前期比の推移）

項目	状況	前年同期比		前 期 比				
		今期	来期見込	R2.10-12	R3.1-3	R3.4-6	今期	来期見込
業況	好転した	4.6	1.9	7.1	1.1	5.1	5.9	9.0
	不変	42.6	53.3	45.5	35.8	47.4	51.5	53.0
	悪化した	52.8	44.8	47.4	63.1	47.5	42.6	38.0
	D・I	▲ 48.2	▲ 42.9	▲ 40.3	▲ 62.0	▲ 42.4	▲ 36.7	▲ 29.0
売上(収入)額	増加した	9.2	3.7	12.1	6.1	18.3	15.7	
	不変	38.5	51.3	38.3	29.6	33.6	49.1	
	減少した	52.3	45.0	49.6	64.3	48.1	35.2	
	D・I	▲ 43.1	▲ 41.3	▲ 37.5	▲ 58.2	▲ 29.8	▲ 19.5	
資金繰り	好転した	0.9	1.9	2.8	1.0	1.0	1.0	
	不変	58.9	64.5	58.9	54.1	61.1	71.1	
	悪化した	40.2	33.6	38.3	44.9	37.9	27.9	
	D・I	▲ 39.3	▲ 31.7	▲ 35.5	▲ 43.9	▲ 36.9	▲ 26.9	
仕入単価(材料等)	上昇した	27.1	23.6					
	不変	64.5	69.8					
	低下した	8.4	6.6					
	D・I	18.7	17.0					
採算(経常利益)	好転した	3.7	2.8					
	不変	46.3	56.6					
	悪化した	50.0	40.6					
	D・I	▲ 46.3	▲ 37.8					

○ 設備投資実施・来期計画と投資対象

【今期実施内容】

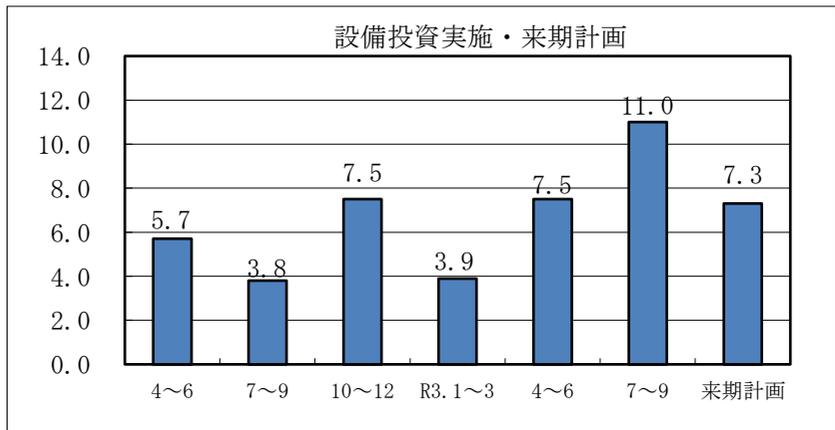
回答109事業所の内、12事業所(11.0%)が実施。

●建物=6事業所、●土地、その他=各3事業所、●サービス、車両・運搬具、付帯施設=各2事業所、●OA機器=1事業所

【来期計画内容】

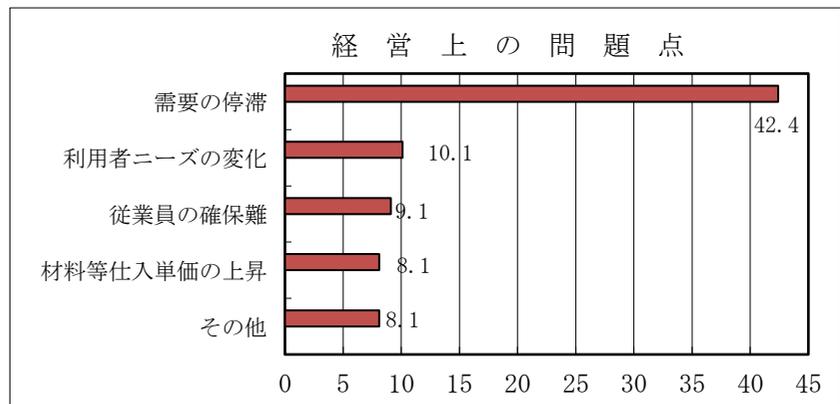
回答109事業所の内、8事業所(7.3%)が計画。

●建物=4事業所、●その他=3事業所、●付帯施設=2事業所、●土地、サービス、車両・運搬具=各1事業所



○ 今期の経営上の問題点（1位回答の多い順。同率の場合は1～3位回答合計による）

1位は前回と同じく「需要の停滞」であり前回より2.6ポイント増加した。2位は前回3位の「利用者ニーズの変化」で1.7ポイント減少した。3位は前回4位の「従業員の確保難」で0.5ポイント増加した。4位は前回5位の「材料等仕入単価の上昇」で2.7ポイント増加した。5位は前回2位の「その他」で、4.8ポイント減少した。



4. 全国と対比した主要景況項目の動向 -前年同期比D I-

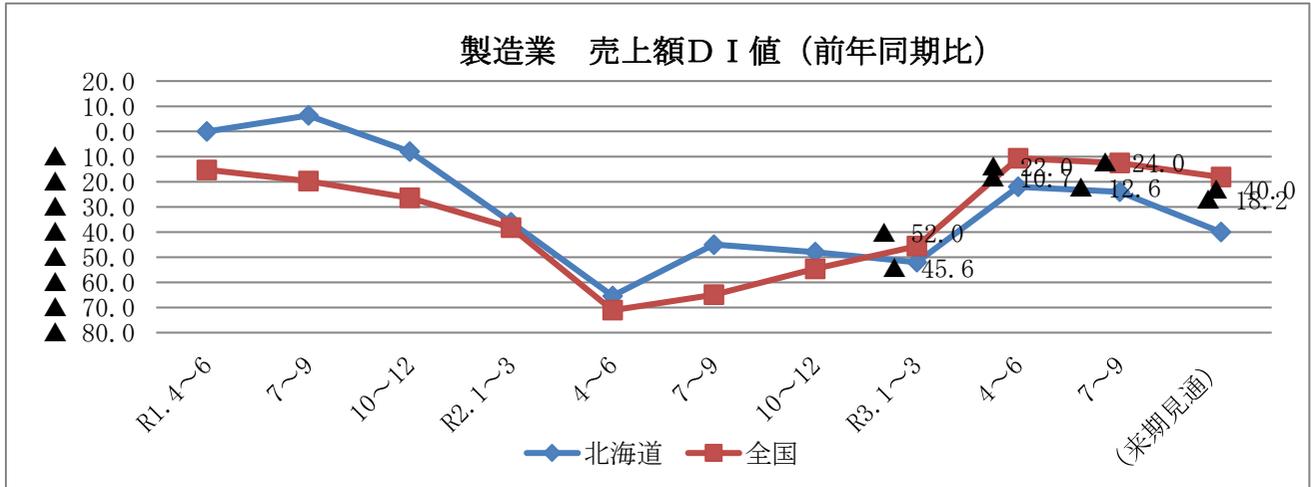
【各調査時期における前年同期比の「増加(上昇・好転)」回答企業比率-「減少(低下・悪化)」回答企業比率】

製造業

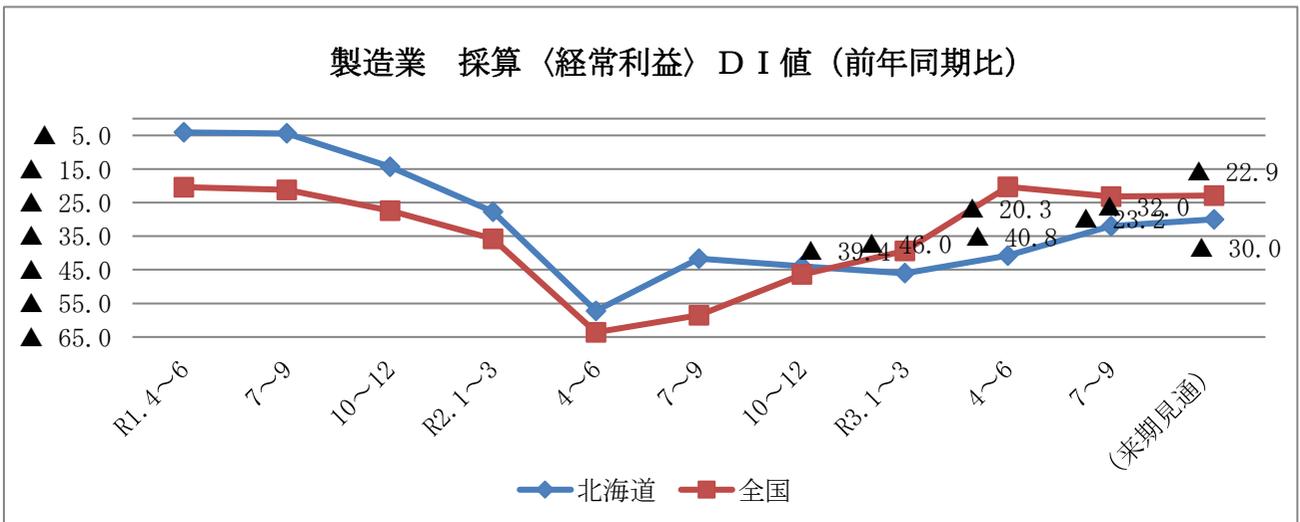
【北海道】(今期)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇
(見込)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇

【全国】(今期)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇
(見込)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇

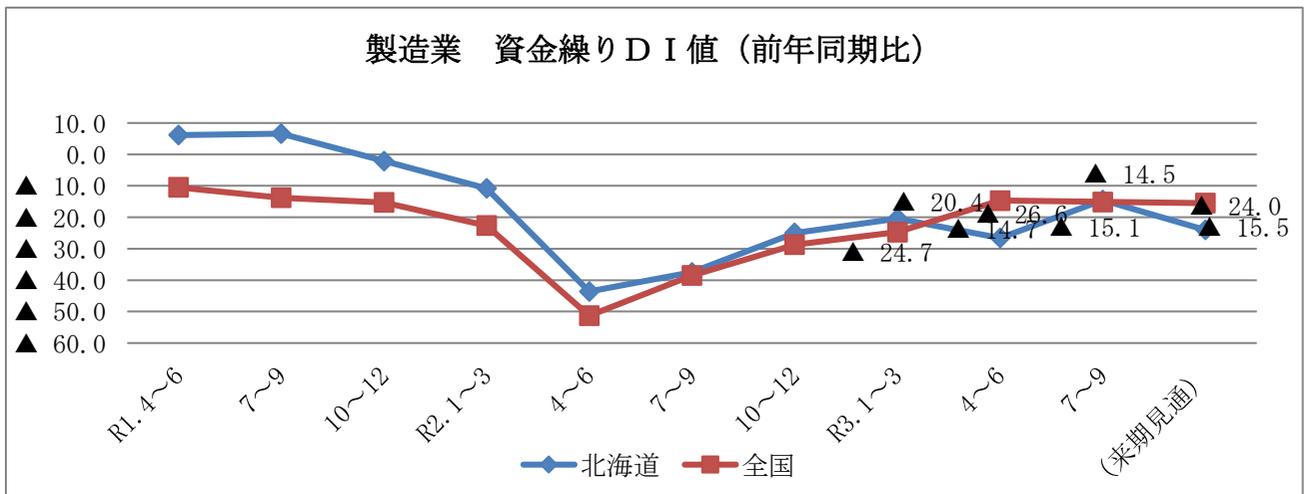
売上額



採算



資金繰り

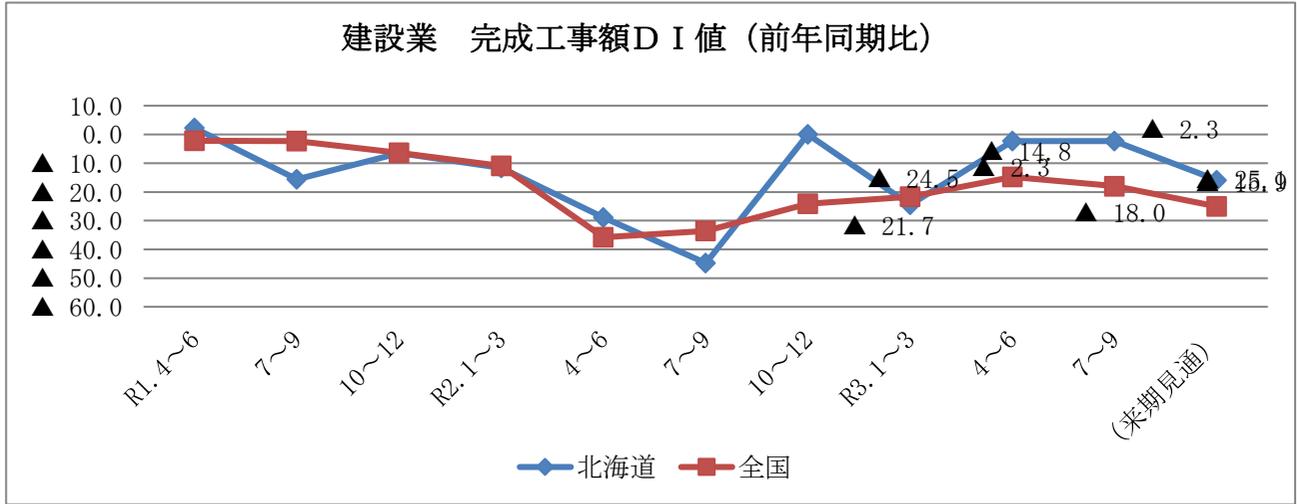


建設業

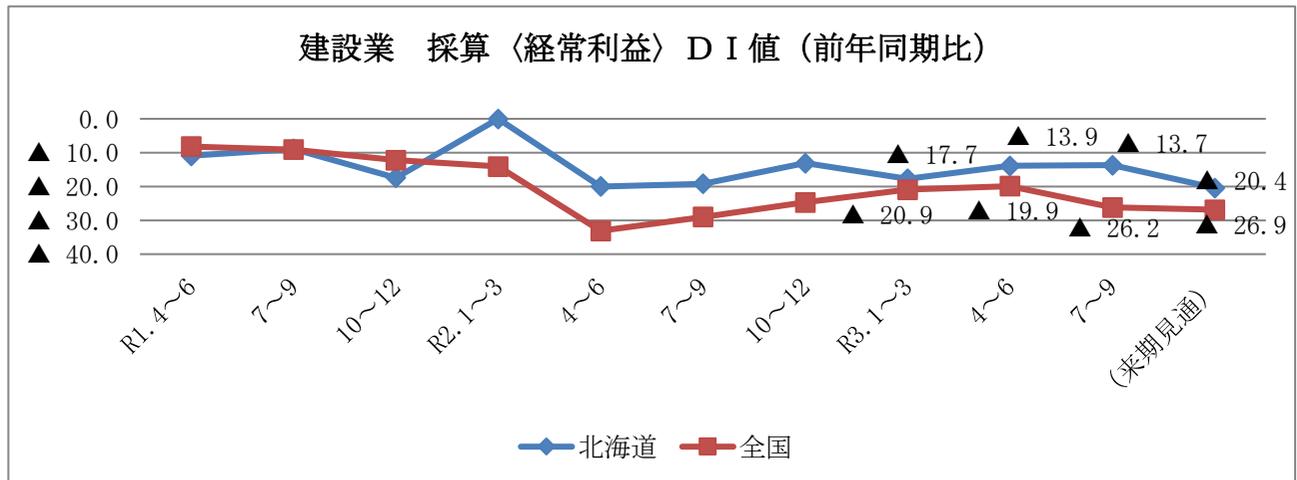
【北海道】(今期)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…減少
 (見込)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇

【全国】(今期)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇
 (見込)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇

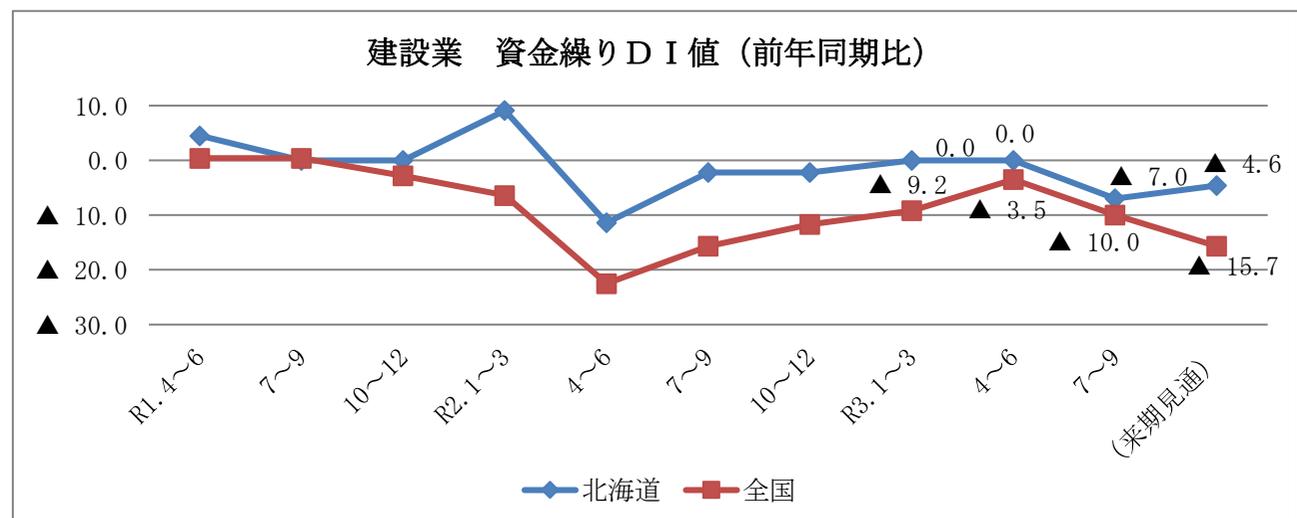
完成工事額



採算



資金繰り

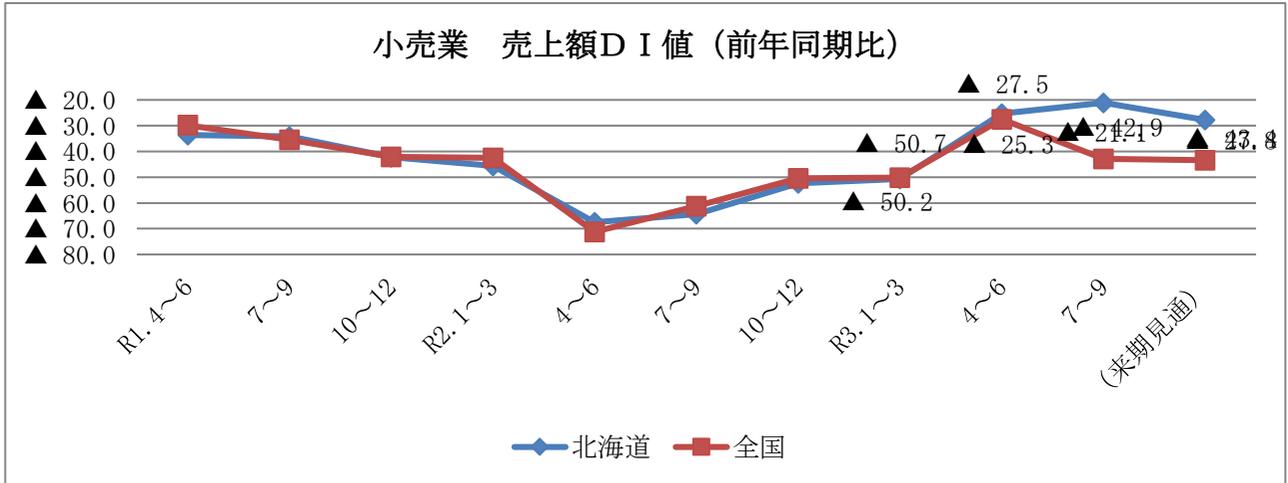


小売業

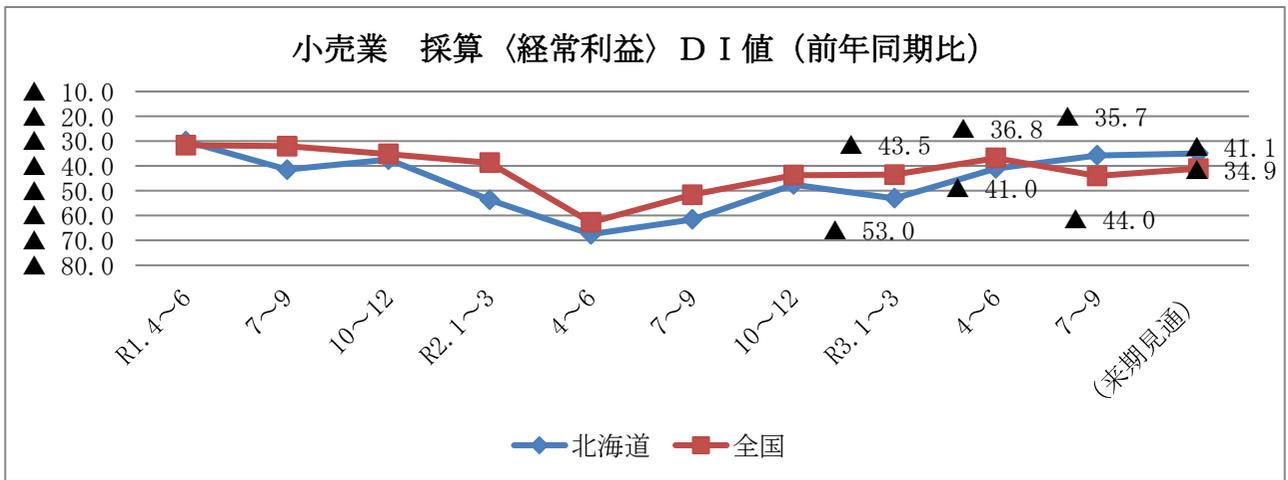
【北海道】(今期)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇
(見込)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇

【全国】(今期)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇
(見込)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇

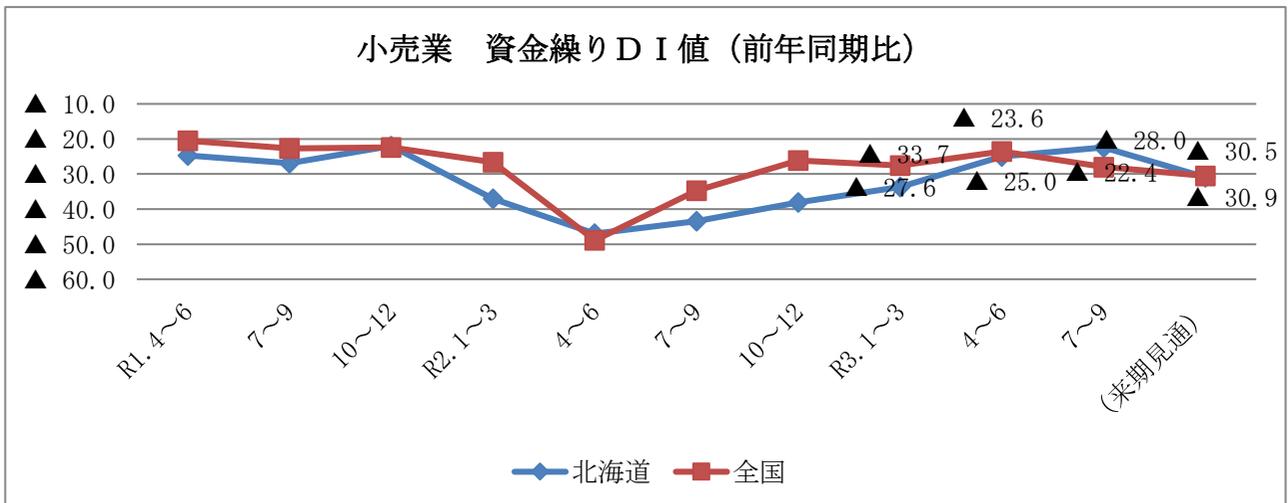
売上額



採算



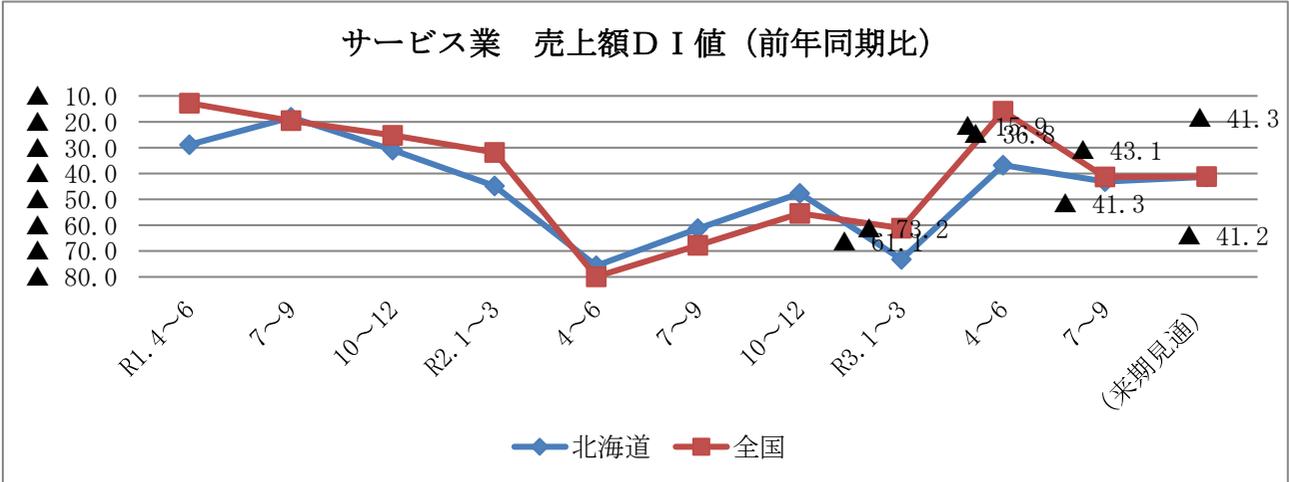
資金繰り



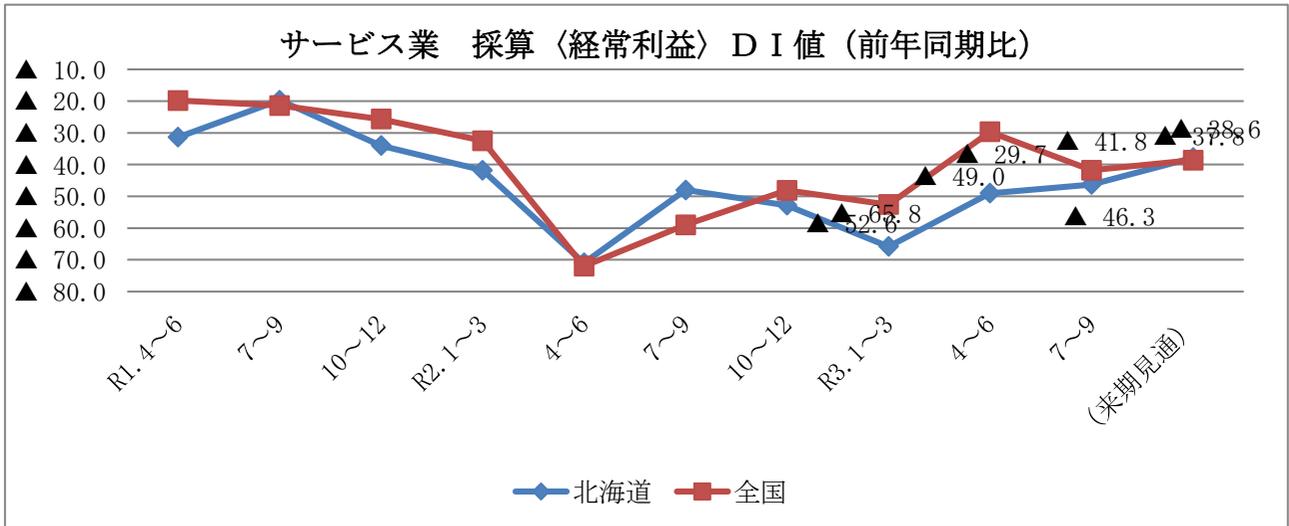
サービス業

【北海道】(今期)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇
 (見込)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇
 【全国】(今期)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇
 (見込)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇

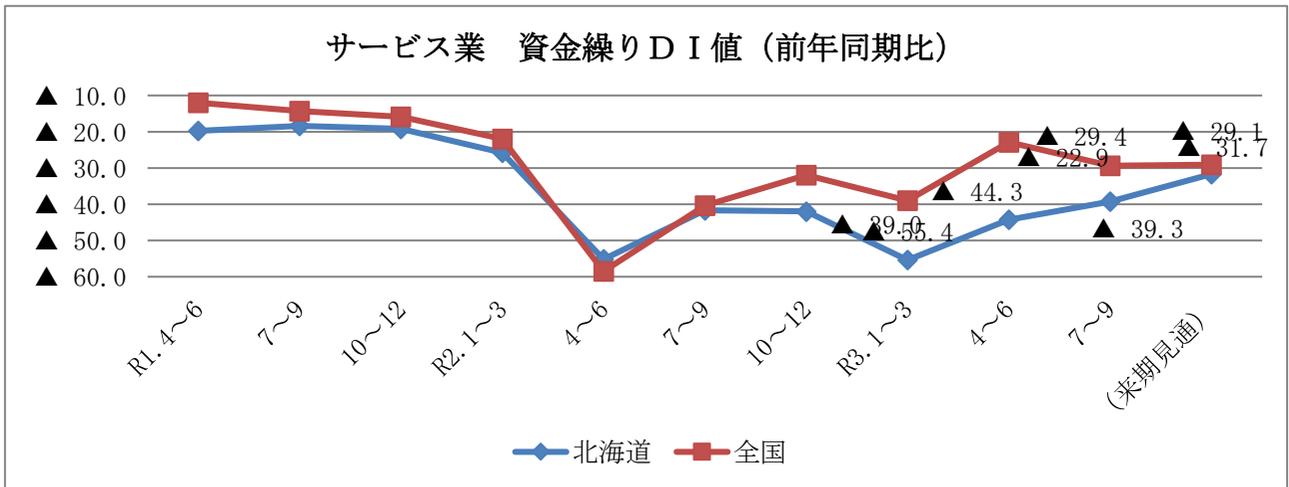
売上額



採算



資金繰り



5. 自社の業況判断の背景について感じている事(調査対象企業の声)

業種	内容
製造業	<p>●受注はある程度あるものの加工賃の安さや加工に必要な資材の支払いのため、採算がそれほどないか赤字の状態となっております。元請に見直してほしいのですが受付けてもらえません。他の受注でカバーしている状態です。●従業員の数が足りず、作業効率がよくない状況が続いていますが、現メンバーで、締日を意識して、仕上りを少しでも早められるよう、工夫をしています。営業する時間を確保できるよう、時間の使い方を工夫していきます。●催事が減り、売上減となっている。●食料品の製造販売ですので、コロナ禍の影響が小さくなったと言えます。1日の店舗来客数は若干少なくなったが、客単価は大きくなった。●前年9月よりGOTOキャンペーンがあり大きく売上を伸ばした。今年はコロナで前年売上を大きく下回る。●本年5月頃より鋼材価格の高騰が進み、弊社も見積額の見直しをはかっているところです。年末に向けて今後の社会情勢も注視していきたいと思えます。●物産展の催事がコロナで開催が縮小されて、取引のある業者からの受注数が減少しており、売上が伸びない。●緊急事態宣言やまん防による飲食店からの注文やそこに納めている仲卸業者からの注文の減少により、売り上げが伸び悩んでいる。●スーパー関係の新規卸売先開拓により、在庫が不足するほど卸売部門の売り上げは伸びたが、一方で去年に比べて給付金や町内お買い物券の発行がなかったためか、現金売上げ(店頭)はかなり低下した。●コロナ禍により来客の減少が大きいです。●6月以降もコロナ感染拡大で、札幌の百貨店、釧路のショッピングモールもまん防や緊急事態宣言で、売上の減少が予想されるため、しばらくは売上向上のための改善は見込めない状況だ。●今期、ホッケが大漁だが、当社のホッケの取扱は少量で、当社の主体漁業種の雑魚の水揚げが極端に減少している。今後の水揚げが不安である。</p>
建設業	<p>●人の往来が制限されていることにより、設備投資を要する民間需要が停滞しています。現在、事業計画に遅延・延期が生じておりますが、従来に近い水準で人の往来が戻らない限りは、厳しい状況が続くと思われまます。●燃料等の上昇に伴い利益率が低下傾向になってきている。●人がいない。●建設業においては持ち直しの動きが続いている一方、経済はコロナ前の水準を下回った状態が続いている事や、感染症の収束時期の不確実性から来年以降の工事が限定的になることが想定されるので粒々辛苦と積み上げていく。●コロナ禍の景気低下が建設業界にもジワリと出てきて、官工事の面で公共事業が減っている。更にウッドショックに象徴されるように、資材の品不足、納期まで時間がかかる。そして価格の上昇が景気を悪化させている。</p>
小売業	<p>●コロナの状況が一周し、今期については人の流れが増加傾向。また町内の工事業者の増加により、客数をカバーできている。●コロナの影響で人が集まらないことが当たり前の様になって必然的に需要が少なくなってきている。●客単価が低下し、需要の停滞を感じる。●コロナ、猛暑、オリンピック等々、人が更に出ない日々でした。手持ちの資金は、底をつき、今後どう対処していくのがいいのか?日々模索しています。●天候の影響とコロナウイルスの収束までは売上は回復しないと思う。●今年は6月、7月は好天に恵まれ売上上昇したが、8月はお盆の天候不順、またコロナ禍もあり、人の流れも決して良くなく、買上点数も伸び悩んでいる状況。●地域人口の減少。●5月に発出された緊急事態宣言の影響でチラシ代が2割程度落ち込んだが、IT側の売り上げがあったので、7月以降は持ち直した。緊急事態宣言がまた8月に発出されることと、9月以降はITの売り上げが少なくなることが想定され、業績は若干悪くなることが想定される。●しばらく落ち着いていたコロナが、ここに来て急増しています。また、緊急事態宣言が出ることになると、飲食店の時短営業や休業要請があり、売上の落ち込みを危惧しています。影響が出るのは必至です。●相変わらずコロナの影響で売り上げ減が続いています。このままだとあと何年続けることが出来るかわかりません。●長期的に見ると需要の停滞が進行しており、緩やかに業況は悪化しているが、短期的には少し持ち直していると思われる。●購買意欲の減少が顕著にみられ、コロナの影響も少なからずあるため厳しい状況である。●顧客の高齢化が進み、店に足を運ばなくなっている。●売上減はコロナ、売上増は入札物件。●再三にわたるコロナの影響で現状の商売では限界があるが新業態としても地域性から難しさもある。非対面ビジネスを検討して来期導入を目指したい。</p>

サービス業

●コロナ禍で行事がなく散髪するサイクルが長くなっている。●コロナの数が増えると夜はまったく客が来なくなる。仕入、経費がどんどん上昇して、値上げしたいが、お客さんも安い物しか食べないのに値上げしていい訳がない。できるならもうやめたい。●4～6月は繁忙期で、7～9月は閑散期なので売上減少は仕方ないです。例年通りかと思えます。7月は新車が3台売れましたが、年々新車の価格が高くなっている様子が感じます。●家族従業員のみで経営している小規模宿泊施設は、国の支援金（道の支援金と重複出来ず）のみで、給付額は、定額である。コロナ禍は、長期間に及ぶので、コロナ禍以前の売上高の実績をもっと評価して給付してほしい。●コロナ感染症の影響で需要が激減、特別貸付等でとりあえず凌いでいるが、返済が始まると資金が底をつく可能性もある。設備の更新も喫緊の課題であり資金の確保が難しい中見通しが立たない。●昨年よりコロナの影響ありと感じています。●コロナ禍で個人の価値観が変わったように思える。パーマやカラーだと長時間になるので単価の低いカットのみの来店が増え、売上げがダウンしている。●コロナ禍による行事の減少による。●コロナによる影響が大きい。●有り難いことにコロナ禍であっても業種的に大きく影響を受ける仕事ではない。しかし不要不急の外出を控える傾向はロードサービスの売上減に反映されている。今後は従業員の確保及び世代交代が業況の鍵となるでしょう。●国、道、町の支援が必要。長期に渡る制限下では当業種の継続営業は不可能。持続化給付金の再実施をすべき。●先が見えない状況なので売上確保の為の対策を行う必要がある。整備事業が人材不足なので人材確保が急務である。新規事業はコロナ感染拡大のため、体験プログラムの販売ができない状況です。●前年は支援金があったので、その分利益が出た。コロナ禍が落ち着くと、バスの利用は上昇します。まだまだコロナに左右されると思われるが、事務所、車庫の老朽化、手狭は限界となっているので、手を加える予定です。●コロナ禍において旅行客は来ているのであるが、複雑な想いはではあるが来て頂いていることに感謝している。原材料の高騰で仕入代が上がっていることは苦勞している。●常連客が老人ホームに入居したり、コロナ禍での需要の停滞が顕著。外壁も老朽化が進んでいるため、修繕することにした。●昨年とはあまり変わらない。コロナの影響は引き続き大きい。●店の老朽化と老人ホームに入り人が少なくなり、料金も上げることが出来ない。●お客様の外食スタイルが変化している。飲料での客単価向上が難しくなってきている。昼の工作中的外食は変わらずだが、知人が集まったの外食は減少しているので、店側も変わっていかねばと思う。●新型コロナウイルス感染症が長期化しているので売上の増加が見込めない。●新型コロナウイルス感染症により宿泊客の減少が続いています。●7月8月はコロナの感染拡大により、回転率が減少しています。9月には少し回復してくれると有り難いです。●業種的には恵まれていると思う。低い位置ではあるが、安定はしているが、好転に転じる理由が何もないのが不安。●コロナの終息が見えないと何もできない。状況は悪くなる一方。